

エコファーマーネットワーク通信

〈No.21〉



全国エコファーマーネットワーク
会員番号 A0000000

☆農林水産省が発表（平成26年7月1日）した平成26年3月末現在におけるエコファーマーの実認定件数は、186,451件でした。平成20年度末（186,156件）とほぼ同じ件数です。専業農家数41.5万戸（平成25年）の40%強です。

☆新規認定数は、7,638件と平成13年度の8,100件を下回る水準でした。

☆実認定件数が減少した背景として、平成25年度に5年間の計画期間を終えた後、高齢化などのため再認定申請をしなかったことが要因とのことです。

☆この制度の根源には、農業が地球環境に与える負荷を軽減するためには、国境を超えた世界的な取組みが必要であるとする共通認識があります。昭和47年（1972）6月にスウェーデンのストックホルムで開催された「国際連合人間環境会議」、平成4年（1992年）6月にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連会議〈地球サミット〉で問題提起されました。

☆我が国にあっては、「新しい食料・農業・農村政策の

方向」（平成4年6月）で、環境負荷の軽減を配慮した農法推進の必要性が提言されました。ついで「食料・農業・農村基本法」（平成11年7月）で、国土や環境の保護など、生産以外で農業や農村が持つ役割を高めるための法律が制定されました。

☆また、「持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律」（平成11年7月）で、環境保全型農業の推進が明示されました。それにより、初年度に、都道府県知事から認定されたエコファーマーは13件でした。エコファーマーになると環境保全型農業に取り組むための資金導入で特例措置がある他にメリットがあります。

☆これまで、環境保全型農業研究会（平成11年～15年）、「今後の環境保全型農業に関する検討会」（平成19年～20年）等の、政策提言があり、その都度必要な施策がなされてきました。しかし、大量・広域マーケットで取引される農産物に比べエコファーマーの農産物の価格が高い水準にあるため、店

舗などに並べると価格競争で不利になるというマーケット問題は、具体的施策は手つかずのままでした。

☆今年の全国交流会では、この手つかずの問題を考えたいと思います。講師として、生活協同組合パルシステム産直・商品活動の横山博志部長をお迎えし、一緒に考えたいと思います。横山さんは、全国エコファーマーネットワークの誕生に尽力された方です。

☆今回の通信は、福岡県で合鴨水稲同時作を実践している古野隆雄氏の講演内容を紹介しました。講演は、本年2月25日に開催した第19回環境保全型農業推進コンクール表彰式（全国環境保全型農業推進会議主催）に併せ行ったシンポジウムでのものです。

☆2月の講演では、「世界に広がる合鴨水稲同時作」が世界10数カ国の写真とともに報告されました。本通信の最終ページに古野氏の著書をご紹介しました。参考にいただければと思います。

（全国エコファーマーネットワーク事務局）

同時作と輪作

～合鴨家族が展開する田んぼの多様な生産力～

合鴨家族 古野農場代表 古野 隆雄

1 歴史的視点

今年は国連の、国際家族農業年です。地球全体を考えた時に、限られた農地で家族が多様な生産をすることが大切であり、その楽しさが農業技術を作るという点についてお話ししたいと思います。

歴史的に見て、中国人が3千、4千年前に真鴨から、アヒルを作り出しました。野生のカモの家畜化です。その飼い方は、今日のように小屋に入れた飼い方ではなく、朝、田んぼにアヒルを放し、夕方連れて帰りエサを与える(図1)。そのような飼い方が



図1 養鴨治蝗示意图

(資料:『中国古代農業科技史図説』)

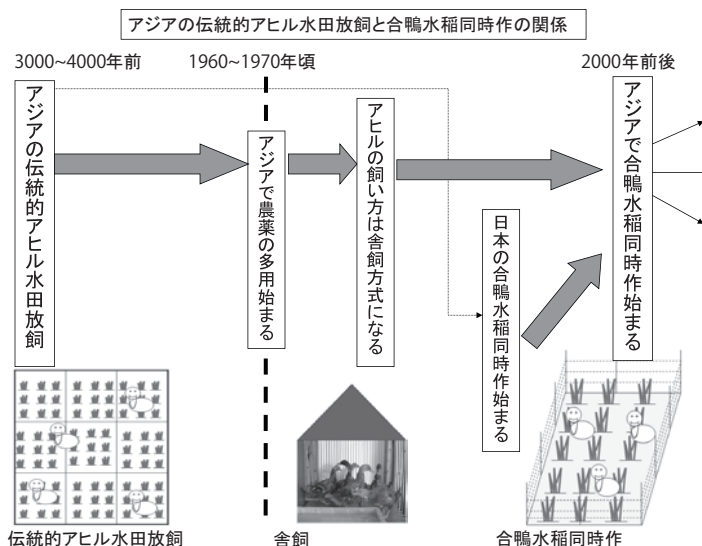


図2

1960、70年代までなされてきました。アジアの伝統的アヒル水田放飼農法です。中国やベトナムで60、70年代になって農業を使うようになって舎飼方式が一般的になり、アヒルの放し飼いは激減しました。アジアで広く行われてきた伝統的方法と、私が行っている合鴨水稲同時作とは違いがあります。アジアの伝統的アヒル水田放飼ではアヒルが田んぼから田んぼに自由に動き回ります。これは、畜産の技術です。ここで重要なことは餌をどう確保するかです。田んぼにある自然の餌が重要になります。それが最大の技

術目標です。私は伝統的な方法と合鴨農法とどこが違うのかをよく考えてみました。決定的な違いは囲い込みを行っているかないかです。田んぼを囲い込んで限定空間にすることで、合鴨の稲に対する諸効果、雑草防除、害虫防除、養分供給、刺激効果とかが格段に高まります。囲い込みを行うことで畜産の技術が本格的な稲作技術と畜産技術となったわけです(図2)。

2 合鴨水稲同時作

多くの農業は、トマトならトマト、牛なら牛、豚なら豚、小麦なら小麦だけを作るのが

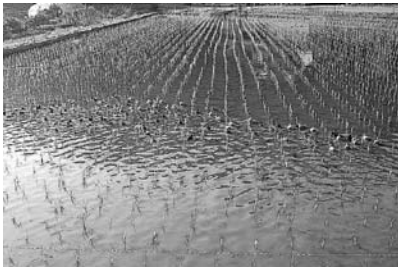


図3

普通ですね。しかし、2つ以上のものを内的関係を保ちながら同時に作っていくことが同時作です。「同時作」は私が勝手に作った言葉です。

播種後35日の苗に生まれて1週間の鴨を放します(図3)。心が安らぐ風景だと思います。これは、家畜の飼い方にあると思います。本来、家畜は農家の庭を走り回ったりしているものです。今日、家の周りを家畜が走り回っている風景は見られません。大規模畜産は、臭いや鳴き声に対する苦情を回避するため山中深く入り、家の近くで家畜が見られなくなりました。この技術の素晴らしさは、合鴨の風景で心が和むことだと思います。アジアの農耕民族だけじゃなくて、世界中の人が同じように気持ちよさを覚えると言います。本来、畜産のあり方はそういうものであったものが、効率を上げようとして多頭飼育、舎飼いに変わりました。おそらく私は、鳥インフルエンザの原因は近代的畜産のあり方に原因があると思っています。なぜならア

ヒルは3千年前から、1960年代までずっと放し続けて来たのです。もし野鳥やアヒルが原因なら、アヒルも野鳥も現在存在していないでしょう。野鳥やアヒルが鳥インフルエンザの根本的原因であるという事は証明されていません。

3 合鴨の雑草防除効果

合鴨が稲の生育にとってどのような効果を持つかについて見てみますと、まず雑草防除があります。実際に水田の中に3m四方の対象区を作って、合鴨が入るところと入らないところを観察したものです(図4)。囲いの中は合鴨が入らないためにたくさんの雑草が生えました。一方、囲いの外では、雑草が全く見られません。写真は合鴨が雑草を口にしているところです(図5)。



図4



図5

4 合鴨の害虫防除効果

昨年の私の水田(図6)と近所の田んぼ(図7)を比較して見て頂きたいと思います。昨年(2013年)、九州では、ウンカの大被害に遭いました。江戸時代の九州・大分の農学者大蔵常永は、『除蝗録』の中で、「ウンカの襲来が飢饉をもたらす」と書いていますが、それを彷彿させるような、状況になりました。日本のウンカはベトナム、中国の順に飛んで来ます。中国で農薬を使うようになり、生き残ったものだけが日本に飛んできます。農薬耐性を獲得した生き残ったものだけが飛んで来るので、日本の薬もきかなくなります。中国の農薬と日本の農薬は名前が違って成分は同じ様です。そんな状況の中、私の合鴨田は、ウ



図6



図7

ンカの被害をほとんど受けることはありませんでした。アジア全体から見ても、合鴨稲作で一番素晴らしい点は害虫防除効果にあると言われています。日本の有機稲作は色々ありますが、主に除草技術です。一方、合鴨稲作は、除草、害虫防除、養分供給、刺激と多面的な効果があります。

ウンカは、稲の株元10cmの所に産卵をすると、本に書いてありますが確かにそうです（図8）。合鴨は、飛んできたウンカをすぐに食べて産卵させないので、ウンカの被害がなくなるのです（図9）。ベトナムでも、かつて伝統的方法で鴨を放した時はウンカの被害は少なかったということを言っております。ここが同時作の素晴らしさだと思います。田んぼを囲い込んで稲作と畜産を限定空間で合鴨を



図8



図9



図10

飼育すると自然に虫害対策ができるのです。これが同時作の素晴らしさです。私は3年間、合鴨がウンカを実際に食べているかどうかについて地元の普及員さんと、夏に田んぼの合鴨を解剖して調べましたが、ウンカがたくさん出てきました（図10）。

5 合鴨の刺激効果

合鴨稲作では、稲に合鴨が触れることによる刺激効果が見られます。触れることで稲は茎数が増え、一本一本が大きくなり天に向かって開張します。化学肥料とか農薬とかを与えるのではなく、動物と植物を組み合わせることによって起こってくる刺激効果が確認できます。今日、多くのニワトリは、ウィンドレス鶏舎で密飼いで飼われています。家畜は様々な能力を持っています。用畜として卵や肉を採り、役畜として車や農具を引っ張り、さらに糞畜として肥料を作るなど多くの能力を持っていますが、それを、ケージの中に閉じ込めたら、そういう能力は発揮でき



図11

ません。田んぼの合鴨はあらゆる能力を力一杯発揮して、楽しそうに泳いでいます（図11）。故に合鴨の風景は心が和むものです。

6 合鴨の濁り水効果

秋に、九州大学の土壌学の先生と合鴨田の土を掘り起こしました。表面から粒子の細かい層、中くらいの層、砂の層と3層構造に分かれます。そうすると、大きいひび割れが見えますが、このひび割れのおかげで秋に良く乾き、埋まらないのでコンバインも運転しやすくなります。水があるときは、この3層構造で、水持ちが良くなるという働きがあります（図12）。つまり、水があるときは水持ちが良く、水を落とすと良く乾くのです。



図12

7 合鴨のジャンボタニシ防除効果

ジャンボタニシ対策でも、合鴨が活躍しています。水深の浅い日本の水田には天敵がないから外来生物のジャンボタニシは異常繁殖してしまっていますが、合鴨はこれが大好きで、喜んで食べています。それは美味しい鴨肉になります（図13）。

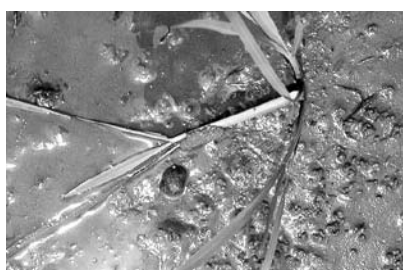


図13

8 生物多様性

合鴨を田んぼに放すと、なんでも食べてしまうので、生物多様性が低下をするということをよく言われます。果たしてそうでしょうか。合鴨を入れると、合鴨の糞を栄養源として、ミジンコが大発生し、それを食べるカブトエビやホウネンエビが大発生します（図14）。

図15は、多くの人が驚くのですがこれはオタマジャクシじゃなく、ナマズの稚魚です。1950年代には田んぼには、フナやナマズの稚魚がたくさんいました。今の田んぼにも生物は色々いますが、魚

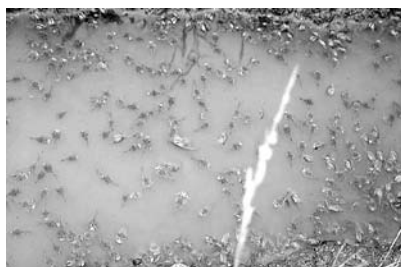


図14



図15

は全然いないです。つまり。1950年代の田んぼの生きものと現代の田んぼの生きものは違うのです。田んぼに魚が棲むようになると、子どもたちが田んぼに入り直接自然情報を学びます。図16は、ナマズのお母さんです。同じ田んぼにドジョウの稚魚も入れていますが、ドジョウの稚魚を入れるとフナも増えます（図17）。

図18は、糸ミミズですが、20cm四方で144匹が、合鴨



図16

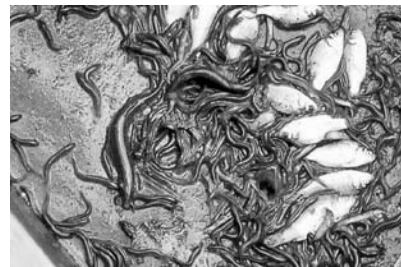


図17

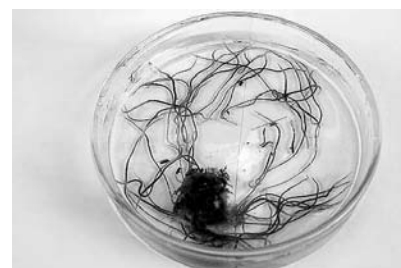


図18

の田んぼにいました。合鴨が糞をする、それを糸ミミズが食べ、その糸ミミズを合鴨が食べ、その糞をまたイトミミズが食べる。そういった面白い循環構造ができています。

9 水田の多様な生産力

田んぼは米だけを作るところじゃないと思います。田んぼにドジョウを入れたり、鴨も入れたりしています。畦にイチジクやクチナシを植えています。基盤整備が終わって、田んぼが30m×100mになりました。非常に整然として良くなりたいですけど、殺風景で全然面白くないのです。昔の田んぼは高低差があり、柿の木等が畦に植えてあったりしてすごく面白かったと思います。

9月に私の一枚の田んぼで同時にとれるものを紹介しま



図19

す。ドジョウ、フナ、イチジク、米、鴨です。図19のようになります。つまり田んぼでご飯とおかずが同時にできるのです。これが同時作の豊かさであり、大切な事と考えています。食糧問題は宇宙船地球号全体で考えるべき問題です。地球全体で、凡そ10億の人が飢餓状態にあり、7人に1人が飢えています。砂漠化、温暖化、都市化と利用できる耕地はどんどんなくなっていますが、これからどのような農業が大切かという、限られた土地の中でできる限り多くのものを作る農業が重要になります。それが世界が共存し、持続できる方向です。これまでも緑の革命とかの努力が払われてきました。しかし、これまでのところ十分な成功に至っていません。

日本の食糧自給とか、アメリカの食糧とかベトナムの食料等ではなく、地球全体の自給を考えたとき、限られた土地の中でいかに多くのものを作ることができるかがやはり求められます。そのひとつの



図20

方法は、同時作すなわち同じ土地に色々なものを同時に作ることです。合鴨水稻同時作とは、この条件を満たすのです。普通の田んぼは、ご飯しかできません。非常に素朴な考えですけど、世界の食糧問題の解決のための根幹になることだと思います。アメリカから輸入しようとか、そういう問題じゃないです。宇宙船地球号の地球家族がどうすべきかという問題ですね。

もう1つの大きなやり方が輪作です。稲刈りが終わったら、私は野菜を作ります。田んぼを乾かすためにプラソイラーをかけ、深さ40cm、幅5cmの溝を3mおきに切ります(図20)。野菜は、ブロッ

コリー、ネギ、ハクサイ、ニンジン、トマト、ナス、スイカ、タマネギ、レンコンと百姓百作であらゆるものを作っています。また、餅や小麦粉も作っています。私は家族が食べるものを全部自給して、それと同じものを消費者に届けています。私の農業の目的は、家族と一緒に働くということです。現在、私たち夫婦と息子2人と、長男の嫁さんと一緒に働いています。

図21は、輪作と同時作の関係を示したものです。輪作は季節の中でのローテーションです。季節の変化の中で、小麦を作り、野菜を作り、稲を作り、また小麦と野菜、季節の推移に応じて多様な土地利用をしています。同時作とは、同じ時間に魚、稲、合鴨を作ることです。この輪作と同時作を統合することで、田んぼの多様な生産力が真に豊かになると思います。同時作は輪作を補完するおおきな意味を持っていると考えており

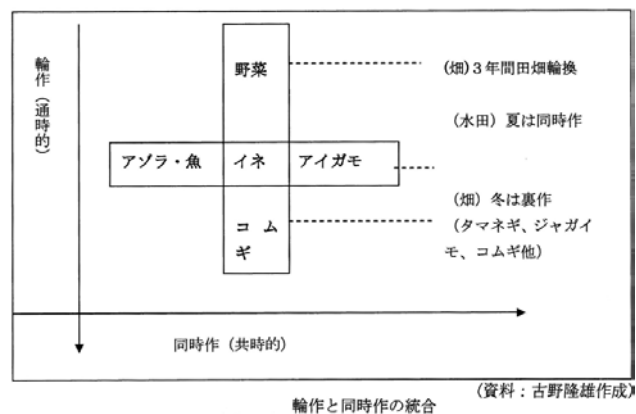


図21

ます。輪作と同時作の統合に加えて、考えなければならぬのは循環ですね。クズ米、クズ野菜、生ゴミを合鴨や鶏に与え、その糞を堆肥にして、田畑に還元する稲作と畑作と畜産の循環です。これにより土は豊かになります。

10 省力化技術 ～電気柵永年設置～

朝から晩まで働いていますが、有機農業の大きな問題として省力化があります。有機農業は昔の農業のやり方で行い、それに付加価値をつけるということで良いとする考え方があります。有機農業を本当にやっていくなら、省力化することがとても大切です。今後、最大の問題は、食料としての農産物は誰が作るかです。稲作農家の平均年齢は70歳になり高齢化が進み担い手の問題が大きいです。有機農業を誰もができるようにすることを考えなければいけません。

省力化を検討する上で、合鴨の飼養に要する関連作業の時間調査をしました(図22)。その中で、網・支柱・電気柵張りが合鴨飼養時間の

4割を占めていました。この省力化を図ることを検討しました。

これまでは、田植え後2週間以内に急いで電気柵を張り、収穫前に外してきましたが、張ったりはずしたりすることをやめて、永年設置するという考え方に至りました。これによって規模拡大が可能になりました。張ったりはずしたりすると、とても規模拡大はできません。田んぼの入口だけをはずして、それによって規模は、今は7.3ヘクタールでやっています。張ったりはずしたりの方法に比べて、面積はずっと広がっていきことができます。冬の間に時間のとれるときに柵の修繕などができます。労働の分散ができるわけです。

11 省力化技術 ～直播きと深水の利用～

もう1つは直播きですね。直播きと合鴨水稻同時作の結合をやっています(図23)。直播きをして、芽が出たら農機具メーカーのオーレックス社と共同開発した中耕除草機をかけます。これにより、条間の除草はきれいにできるよ



図23



図24

うになりました(図24)。

さらに、深水の応用があります。芽が出てきたらすぐ15cm～20cmの深水にし(図25)、4～5日間置きます。その後、水を落とします。深水の中でヒエの根は発達せず、稲はしっかりと根をはり直立して育っています(図26)。



図25

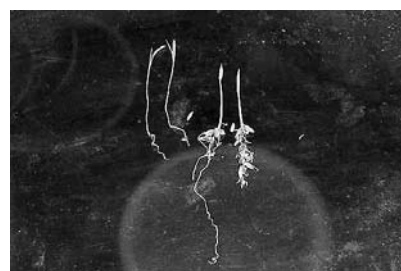


図26

アイガモ飼養時間 (単位: 分/10a)							
	入水前の 世話	網・支 柱・電気 柵張り	アイガモ 放飼	アイガモ 給餌	アイガモ 見回り	アイガモ 捕獲	合計
平均値	240.4	411.2	23.2	303.9	64.6	41.1	1,084.3

図22

水を落とした段階で、鴨を放せば比較的容易にヒエを防除できます。ただし、直播きの時期が限定されるので難しい問題があります。本年は、アイデアを出し、「乾田株間除草機」を開発しました。その結果、ヒエが驚くほど少なく、本年の乾田直播きのイネは美しく豪快に育っています。乾田直播きにおける除草の新しい原理が見えてきました。

今日色々な課題がありますが、一番大事だと思うのは「持続性」だと思います。持続性といっても、社会の持続性、地域の持続性、国の持続性といういろいろありますが、私にとっては、子供・孫が幸せ



図27

な一生を送れるような、社会なり自然なりを作ることです。このことは、私の課題であるとともに、一人一人がこういう意味での持続性が大切であると意識することが必要だと思います。国際家族農業年を迎えて、これからは様々な国と未来に亘って共存していかなければなりません。そのために必要なことをしたいと思っています（図

27）。

追記：講演では、他に「世界に広がる合鴨水稲同時作」が紹介されました。紙片の都合から、割愛しました。以下に、古野氏の著書を紹介します。

- (1)『合鴨ばんざい』（1992.12），農山漁村文化協会（農文協），A5，156pp.
- (2)『無限に広がるアイガモ水稲同時作』（1997.11），農山漁村文化協会（農文協），A5，180pp.
- (3)『合鴨ドリーム』（2011.1），農山漁村文化協会（農文協），A5，192pp.
- (4)『アイガモがくれた奇跡』（2012.6），家の光協会，B6，200pp.
- (5)『農業と人生を面白くする』（2013.6），NHK出版，A5，174pp.
- (6)『農業は脳業である』（2014年予定、コモンズ）

《講演レジュメ》

1 経営の概要

私は37年間有機農業をしてきました。長い間、五人の子供に手伝わせて、夫婦で2haの耕地を耕してきました。子供達が成人になった近年は、私達夫婦、長男夫婦、次男と研修生二人で力を合わせて楽しく忙しく家族農業を営んでいます。

現在の経営は合鴨水稲同時作7ha、小麦2ha、野菜2ha、自然卵養鶏300羽、合鴨ヒナ4,000羽、レンコン、シイタケ、筍、果樹、蜜蜂、ミソ、漬物、モチ、小麦粉…。多種多様、百姓百作の有機農業です。

私の有機農業の目的は我が家の耕地と山林をフル活用して、家族のために安全でおいしい食べ物を可能な限り自給する事、そしてそのために家族で力を合せて一緒に働くことにあります。

自給と同じ物を消費者に届けています。直接提携消費者100世帯、宅急便で送る年間契約消費者140世帯、期間限定郵パック、マルシェ等。流通方法も多様です。

2 魚のいる田んぼ

私が子供の頃の1950年代、梅雨期の大雨が降ると穂波川から用水路を遡り、大きなフナやナマズが産卵のために田植直後の水田に

侵入。波を立てて泳ぎ回りました。それを捕えて家に持って帰ると、祖母がぶつ切りにして味噌汁にしてくれました。当時、川の魚は私達の食べ物でした。

私の村のどの田んぼにも、田んぼで産まれたフナやナマズの稚魚やタニシがいっぱいでした。ドジョウやエビやザリガニもいっぱいでした。現代の一般の水田には魚は皆無に等しい状況です。

1992年、私は中国香港の博物館で粘土板に刻まれた中国古代の水田の絵図を見ました。そこには働く人間、稲、アヒル、魚が克明に描かれていました。アジアの田んぼでは大昔から稲だけでなく食糧

としての魚やアヒルも生産してきたのです。「アジアの田んぼの多様な生産力」です。田んぼはそんな豊かな生産空間だったのです。イネ単作、モノカルチャーの現代の田んぼと趣が違います。

3 9月の田んぼの同時作

9月は私の合鴨田の「同時作」の結果がよく分かる季節です。

合鴨田のイネが日ごとに熟れ、黄金色の稲穂を風が揺らします。

合鴨は八月末頃に水田より引き上げ、山の竹林の中で肥育します。竹林の中を大きくなった合鴨が走り回る姿は壮観です。

基盤整備後の整然とし過ぎて、画一的で退屈な水田風景を打ち壊すべく私は田んぼの畦に3mおきにイチジクの苗を植えました。田んぼが一気にアジアの猥雑空間に変身。九月になるとそのイチジクが黒紫色に熟れて行きます。

6月初めに2mm～3mmの大きさに合鴨田に放流したドジョウの稚魚が9月には人差し指大になります。網袋を排水パイプにつけてドジョウを朝一番に捕獲します。少年の日を想いだす楽しい仕事です。

9月の私の合鴨田では、イネと合鴨とイチジクとドジョウが同時に収穫されます。つまり一枚の田んぼでご飯とおかずとフルーツが同時に収穫される訳です。これが同時作による楽しい「田んぼの多様な生産力」です。

4 水田輪作

田植前の代かき作業で泥と水をドロドロにかき回すと不透水層が

形成されます。すると乾田状態にした時も水の縦浸透が悪いのです。だから稲刈後の田んぼは畑に比べて土壤水分含有率が高く、乾きにくいのです。そこに野菜の種を播いても、有機物の分解が悪く、根が発達せず、野菜の生育が良くありません。

私は長年田んぼを乾かそうと堆肥を投入し続けましたが、状況は全く改善しませんでした。有機物の投入による土づくりと乾くようになることは別の技術項目のようです。

2003年から始めた合鴨乾田直播（直播+合鴨水稻同時作）で再び田んぼを乾かす必要に迫られました。困り抜いていると久留米市の野菜農家の友人がサブソイラーという機械を貸してくれました。トラクターにつけて使用すると乾田に幅1cm、深さ30～40cmの溝を簡単に切っていくことができました。不透水層が破碎され、それまで全く乾かなかった田んぼが嘘の様に乾きました。私はこの機械を購入して使用しました。その結果、我が家の全ての田んぼが乾田化しました。野菜が何でも作れる畑になったのです。

稲刈後、私は田んぼに堆肥を散布し、サブソイラーやプラソイラーかけ、田んぼを乾くようにして耕し、大根、カブ、ニンジン、ホウレンソウ、コマツナ、水菜等の播種をし、キャベツ、ブロッコリー、白菜、ネギの苗を定植します。小麦、ジャガイモ、玉葱も作ります。稲刈から次の田植までの田んぼにイネが無い期間に野菜や小麦を栽培する方法は「水田

裏作」です。

勿論、夏野菜も栽培します。従来私は夏の田んぼの2/3でイネを作り、1/3で夏野菜を作ってきました。近年は比率が少し変わっています。

トマト、ナス、ピーマン、キュウリ、オクラ、スイカ、マクワウリ、サトイモ。三年間夏野菜を栽培したら水田に戻し合鴨水稻同時作をします。これを「田畑輪換」と称します。

つまり私は「水田裏作」と「田畑輪換」の二つの方法で田んぼに野菜を作ってきました。田んぼは水がある時は「水田」、水が無い時は「畑」となる訳です。これは「稲作」と「畑作」を連続的、統一的に捉える視点です。アジアの水田は本来そんな風に利用されてきました。「水田輪作」です。

水田でイネを作った後に野菜を作り、野菜を作った後にイネを作る水田輪作をすると、水環境が激変するので、病害虫、雑草、微量元素欠乏等の連作障害を回避でき、イネも野菜も、無農薬で作ります。「水田輪作」は一挙両得の技術体系です。

5 同時作と輪作の関係

私は合鴨水稻同時作の技術の創造の過程で「表作」→「裏作」→「同時作」という軽い乗りで「同時作」の概念を連想しましたが、その面白さは伝統農業の基本原理である「輪作」と比較してみると明確になります。

作物の連作障害を回避するために、同じ耕地で違う種類の作物を一定の順序で組み合わせ「通時的」

に栽培していく方法を「輪作」と言います。

一方、イネ、合鴨、魚、植物、動物を限定空間で均衡と内的関係を保ちつつ同時共栄的に育てていく「共時的」システムを「同時作」と言います。図1に示すように「同時作」は「輪作」と相補関係にある広い統合的概念であります。

私が創意工夫してきた「水田有機農業」は、田んぼに水がある時は水田として合鴨水稻同時作、水がない時は畑として「輪作」をして、高度に土地利用しています。

同時作と輪作を組み合わせると「田んぼの多様な生産力」が飛躍的に豊かになります。

同時作と輪作を統合して「田んぼの多様な生産力」を全体として高めるこの方法は、アジアにおける小さな家族農業に相応しい適正技術です。本年は国連が「国際家族農業年」を提唱しています

が、合鴨水稻同時作は、家族農業をベースとした世界各国に広がっ

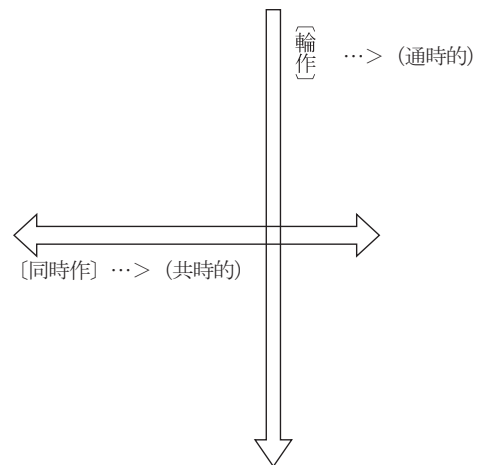


図1 輪作と同時作

ています。

「消費者の部屋」特別展示の開催案内

テーマ	環境に貢献するエコファーマーの活動
期 間	平成26年10月27日(月)～10月31日(金)
会 場	農林水産省「消費者の部屋」
目 的	エコファーマーネットワークの活動状況やエコファーマーが生産している農産物・加工品等を展示し、環境保全に貢献するエコファーマーの取組について消費者の理解を高めます。

「平成26年度エコファーマー全国交流会」(inつくば)の開催案内

テーマ	環境保全型農業の一層の推進を目指して
日 程	平成26年11月4日(火)13:00～5日(水)12:30
会 場	つくば山水亭(茨城県つくば市小野崎254 TEL 029-855-8181)
目 的	全国各地で先駆的な取組を行っているエコファーマーが連携し、先進的な技術や経験を交流しながら研鑽を深めるとともに、消費者や流通関係者との交流を図ります。

連絡先：全国エコファーマーネットワーク事務局(日本土壌協会内)
TEL 03-3292-7281